

第1回姫路市北部農山村地域活性化基本計画策定検討会での意見要旨

項目	内容
活性化全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・計画のタイトルに地名がないことが気になった。北部農山村地域とは具体的にどの地域のことであるのか。タイトルから地名が抜けた理由などあるのか。 ・総花的な計画とするより、重点プロジェクトを設定し、それを実行することが重要である。事業の実施を通じて住民の意識を変えていきたい。 ・計画に位置付ける施策は、数年間で実現させる必要がある。行政による計画なのですべてを網羅しようとするのは理解するが、まずはスポット的に取り組み、交流などが活発化してから、次にいく方がよいのではないか。 ・活性化に向けては、地域でいろいろと検討しているが話がなかなかまとまらない。外から客観的に意見できるアドバイザーが必要である。 ・重点プロジェクトを動かしていくためには、中心となる組織が必要であり、地域農業者としても動きやすい。 ・地域課題としては後継者不足、空き家増加、観光資源不足、基盤整備などがあるが、順序立てて施策に取り組むべきである。 ・流域として夢前川、菅生川、林田川とあるが、それぞれで性格が異なる。同じような施策では意味がない。 ・活性化を考えた場合、お金がまわることも大事である。民間を取り入れながら経済を活性化させる視点が重要。内閣府の地域活性化伝道師がアドバイスに入っている安来地域（島根県）では、地域の株式会社化が提案されている。 ・中枢拠点都市としての幅広い視野での検討が必要である。 ・組織の存在は重要であるが、今の若者は既存の組織があるから地元に戻りたくないというものもある。既存の組織に入ることには抵抗があるだろうが、それでも組織に入りやすい仕組みを考えるなどの対策が必要。
基本計画策定に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域活性化に向けた施策について、短期、中長期の施策が考えられるが、市の計画としては、まず施策を体系化し、その中から重点プロジェクトを抽出するのか。それとも最初から重点プロジェクトのみを位置付けるのか。 ・体系的な整理は必要と考えている。その上で、実際に形にならないと機運が高まらないので、重点プロジェクトを設定したい。計画期間である10年間で、最初の5年間（短期）で行う事業を重点プロジェクトとして位置づけ、その後の5年間で行う事業、計画期間外で行う事業という区分で整理してはどうかと考えている。 ・検討会の中で重点プロジェクトの必要性が挙げられたことを踏まえ、次回では重点プロジェクトに焦点を当てた協議内容にしてはどうか。 ・計画案（たたき台）の前半にある「計画の必要性、基本的な考え方、施策の展開方向」の部分は、昨年度に議論されているため、事務局方で適宜作成していく。 ・次回の検討会で重点プロジェクトを決め、その後で、第1回のプロジェクト検討会を開催したい。 ・予算の限界もあり、全てを実施するのは無理があるが、プロジェクト検討会の中で挙げら

	<p>れた事業などを、本検討会の中で重点プロジェクトとして具体化に向けた検討ができればと思う。</p>
人・コミュニティに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域は高齢化が進行しているため、買い物や医療難民が発生している。姫路市全体を含めると過疎地域ではないが、山奥に暮らす人は困っている。過疎地有償運送制度が活用できればと考えており、北部地域だけでも過疎地域に指定することはできないか。 ・交流人口を増やすために行政が何を支援していくか。地域の境界を超えた交流ができないか。例えば宍粟市やたつの市などと広域連携の手段も考えてはどうか。農林業の枠組みにとらわれず、例えばスポーツや遊びなど、交流人口が増える施策が考えられると思う。 ・空家の増加に、多くの人が不安を持っており、空家バンクの仕組みを早く動かさないといけない。北部で試験的な実施が見える化につながると考える。 ・プロジェクト検討会に、地域の関係団体の女性や若者を入れるとあるが、合併により、旧町の婦人会や老人会など失われた組織も多い。組織があれば食い止められる課題もあり、立て直しが必要である。
地域の景観・環境に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域は谷の深い美しい村のイメージがあるが、地域に住んでいると気付かない。外部から価値を気付かせることも大事である。 ・カモミールを合わせた米作りに取り組んでいる。景観づくりにもつながり、桜と同時期に花が咲くため、集客も期待できる。
農業に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・JA 兵庫西では活性化構想に合致した内容の取組を進めており、今後は、地域事業者と連携した商品開発や姫路産ブランドの発信などを行っていききたい。 ・地域に農産物の集積所（直売所）がないため、福崎など地域外で購入している。コミュニティ維持発展の観点から集積所は必要である。 ・有名ホテルのシェフに姫路産のイチゴで、ジャムを使ってもらっている。また、B級野菜のパウダー化の取組をテレビに取材してもらう予定である。有名なシェフへのPRやマスコミを活用するといった視点も大事である。
山林・森に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・安富町の関にある拠点等を活用して、姫路市挙げてのイベントを開催してほしい。そうすることで、都市部の人との交流も増やすことができる。 ⇒地元からも森の祭りを行ってほしいという意見がある。行政も魅力的なエリアであると認識しており、現在企画を検討中である。 ・先日福岡県で豪雨被害があったが、この地域で同じような豪雨があった場合、根の張っていない山林が多いため、土砂災害が発生するおそれがある。間伐も進めているが、まだ数%に過ぎない。早急な対策が必要である。 ⇒間伐は国庫補助が元手となるが、昨年から半分にカットされている。市の単独補助もあるが、団地単位で間伐できる補助が必要である。国が検討している森林環境税の導入も検討してはどうか。 ・林道整備などの山林工事を行った場合、泥水で川が汚れてアユなどがいなくなる。対策が必要ではないか。

	<p>⇒地滑りの補強工事により、法面から土砂が流出したのではないかと思われる。現在工事は終わったため汚れは落ちているが、未だ川底には泥が溜まっているため、雨が降ると攪拌されて汚れることもある。川のイベント時期には工事を行わないなど、情報交換しながら調整していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林の間伐ができていないため、土に日光が当たらず下草が生えない。林道整備などで重機が入ることにより、結果、雨が降ると泥が発生してしまう。 ・間伐を行うには林道や作業道の整備が優先的な課題である。
<p>商工業に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ある企業の社長と企業連携に向けた検討を進めている。企業が参入すると取組が具体化する。姫路市としてアポをとって協力する企業があるかアプローチできないか。
<p>地元での取組・イベントに関して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9月17～18日に、全国よもぎサミットを行うこととなった。1,000人に来場してもらうことを目標にしており、ハーブを利用したスモーク料理やヤマサ蒲鉾と連携したよもぎのちくわ等の提供を予定している。 ・源泉とよもぎを活かした商品開発にも取り組んでいる。 ・当サミットを実施する際に、北部地域のPRも行いたいと考えている。安富町のPRパンフレットなどあれば提供いただきたい。 ・夢前川で、川床料理を楽しめる空間整備を行っている。9月17日～10月31日まで試験的に実施する。また、廃園となった幼稚園を活用した農家レストランを開設しており、毎月2,500～3,000人程度の集客がある。単施設だけでは交流人口は伸びない。完成度の高い施設を少しずつ増やしていくことで、年間5万人の集客を目指していきたい。 ・実際の事業の実施では、誰が参画するのかが重要である。川床テラスの取組も商工会が頑張っているが、人手不足は否めない。 ・川床の取組モデルを継続していくためには、かっちり事業化していかないと続かない。重点プロジェクトとして、基本計画の中に盛り込んでいただきたい。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夢前スポーツセンターは、利用率が高く、公式の大会にも多く使用されているので、再整備により利用者の増加が見込める。 ・地域で様々な取組が行われているが、知られていないことが課題である。設置場所の検討を含め、地域の情報を集約する拠点は必要である。 ・旧夢前町のときに導入された北部地域だけで徴収している入湯税を目的税として北部地域のために還元してほしい。 ・夢前町で旅行代理店がファームトリップを企画している。県の事業のため、市の担当者は参加しておらず、行政組織間の連携強化が必要である。